

2021/03/19（金）

2020年度

静岡英和女学院中学校卒業式・後期終業式

聖書 ルカによる福音書 10章27節

彼は答えた。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」

### 愛と奉仕のワクチン

長い冬が終わり、春の息吹を感じる頃となりました。

今日、ここに静岡英和女学院中学校卒業式を迎えた赤の学年68名の皆さん、卒業おめでとう。4月からの新たな学びに神様の祝福と励ましを祈ります。また在校する英和生の皆さん、この特別な1年間の皆さんの学びに敬意と誇りを覚えています。皆さんの成長に感謝を献げ、神様の祝福と励ましを祈ります。

この一年、感染症の発生と共に新しい生活様式が始まり、中止、延期、自粛が続いてきました。無念、残念、我慢と、「尻取り」なら負け続けの「ん」が付く感情ばかりが浮かんでくるような毎日でした。

でも、昨日の朝でした。学校の裏の駐車場を出た時、路肩に停まった車からひとりの英和生が降りてきました。すると私の横を別の英和生が走り抜けて一緒に歩き始めました。何でもない朝の光景ですが、ふたりが肩を並べて歩く後ろ姿を見るだけで幸せな気持ちになりました。

2月の終わり、期末試験が近づいていた頃でした。仲良し三人組は毎日下校時刻まで学校に残り一緒に勉強していたようでした。ある日、三人が帰る時、偶然校舎から出た私に気づき、元気よく「さようなら」と言って笑顔で手を振っていきました。とても充実しているのがわかりました。

この1年間、いつも少し先を見ながら、まるで奇跡のように一日一日を過ごしてきた思いが私にはあります。一日一日がとても大切でした。今、一年の終わりの日を迎え、皆さんの何気ない学校生活のひとつコマ、ひとつコマがとても尊いとあらためて感じています。こうして一年を終えられるのも、神様の恵みと導きの下、英和生皆さんが一日一日を大切に歩んできたからです。

私たちは、今、百年に一度、今後はその周期は短くなるかもしれないパンデミック（世界的な感染症）の最中にいます。今を大切に生きる者でありながら、後世に伝える歴史の証人として、また未来へつなげる者として時代の大きな転換期にいます。それはもう人類の進化だけの問題ではなく、人類を含めた地球環境そのものの課題です。もうこれ以上、人間が地球環境を破壊するウイルスとして増殖しないように、神様は私たちに愛と奉仕のワクチンとなるミッション（使命）与えています。そのワクチンとなるため、これからも一日一日を大切に共に祈り、学び続けましょう。

最後に、毎朝お嬢様を見送り、元気な姿で帰ってくるのを祈り、お嬢様の健康と安全な生活を支えて下さったお母様、お父様、ご家族の皆様から心から感謝申し上げます。

特に中学校三年間の課程を終えられた赤の学年の保護者の皆様、これまでの英和女学院へのご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。これからお嬢様は義務教育を終えられ、いよいよ独り立ち、巣立ちの準備を始める頃となります。お喜びと共に寂しさも募られる

ことでしょう。時に優しく背中をさすり、時に黙ってそっと背中を  
押しましよう。神様から授かった尊い命です。神様が必ず守り導い  
て下さると信じて参りましよう。

英和女学院教職員一同、皆様と共にお嬢様の巣立ちの時を楽しみ  
にしております。

2020年3月19日

静岡英和女学院中学校・高等学校  
校長 大橋 邦一